

「おもてなし文化」を 子どもたちに伝えたい



四国中央市金田公民館
主事
久保 章展（四国中央市）

◆四国中央市と金田公民館について

四国中央市は、平成十六年四月に川之江市、伊予三島市、宇摩郡土居町、宇摩郡新宮村の四市町村の合併により生まれしました。当市は愛媛県の東端に位置し、他の四国三県に接しており、いわば四国の中心に位置しています。産業の活発な市街地に加えて、広大な山間部や自然海岸を抱える市であり、産業の中心である製紙、紙加工業においては日本屈指の生産量を誇っています。

金田公民館のある金田町は市の東部に位置し、金川地区、半田地区、三角寺地区から構成される人口およそ四千人の町です。町のいたるところに史跡と伝説が数多く残されており、先人達の歴史と文化が息づいています。地域内には婦人会、体育文化振興協議会、地区社会福祉協議会、交通安全協会、愛護班連絡協議会、老人クラブなど様々な団体があり、それぞれの立場から協力し合いながら、公民館活動の運営を行っています。

◆南小学校六年生お接待体験

金田町三角寺地区には四国八十八ヶ所霊場第六十五番札所三角寺が位置しており、伊予路最後の札所として知られています。

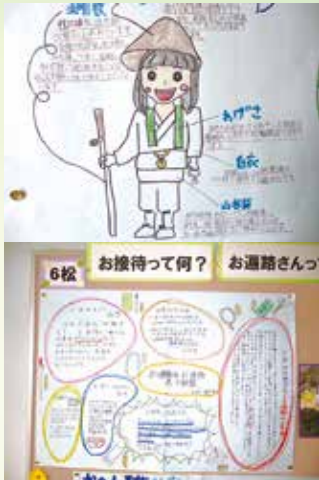
金田公民館では、地元小学生らがこの三角寺という地域の歴史的建造物の学習や四国に昔から根付いてきたお接待文化の再認識や学習、また、実際にお遍路さんをお接待することを通じて人とふれあうことによりお接待文化を肌で感じて学習してもらおうと、婦人会をはじめとした地元団体、三角寺、小学校らの協力を頂き、毎年十月に「お接待体験学習」を開催しており、今年度で十回目となります。



お接待体験

四国霊場開創千二百年を迎える今年度は、十月七日に行い、地元の市立南小学校六年生三十五名が参加しました。はじめにお寺の本堂で住職さんからお寺の歴史についてのお話を聞き、その後、参拝にいられたお遍路さんにお茶やお菓子、地元の和紙で折った折鶴を渡してお接待体験を行いました。

児童学習記事



コミュニケーションは挨拶から始まります。
「おはようございます。どうぞ休んでいってください。」
の挨拶で始めようと思いますが、最初はみんな恥ずかしさもあつてなかなか思うように表現できません。それを見たお接待文化を知り尽くした婦人会の方々から、「みんなの元気な挨拶でお遍路さんの疲れも吹っ飛ばすよ。」
と、アドバイスがあります。すると、そうした子どもたちのお誘いにほとんどのお遍路さんが足を止めてくれるのを見ている内に、みるみる元気になって大きな声が出るようになってきました。
お遍路さんにお茶を出しながら、「どちらから来られたのですか？」
「お遍路は何回目ですか？」
と、次々と会話が弾み、日本各地から来られたお遍路さんの方々と交流が生まれていきます。子どもたちの笑顔により、休憩中のお遍路さんにも自然と笑顔が生まれてきます。

途中、先達さんをお接待した時には、貴重な錦の納め札も頂ける場面もありました。

「お氣をつけて」とお見送りすると、「ありがとう」という言葉が返ってきて、それがみんなの励みになり、嬉しそうでした。こうしたふれあいのひとときを持つことは、児童らにとっても貴重な体験になることでしょう。

思いがけない子どもたちからのお接待をうけた東京や大阪など日本各地から来られたお遍路さんからは、
「二期一会、子どもたちの笑顔いっぱいのおもてなしに旅の疲れがとれました。」
「こんな経験ははじめて。子どもたちからの元気な声でのお接待は新鮮で、いい思い出ができました。」
などの温かい言葉を頂きました。

◆南小学校内での学習活動

南小学校では、総合学習の時間を使い、「受け継ごう お接待の心」と題し、お遍路の歴史、服装の名称、弘法大師空海についてなどを自主学習し、記事にまとめて発表を行ったり、学校遠足で遍路道を歩いてみたりと、この体験活動に向けての予習復習を多様に取り入れ、お接待文化について学習を深めているようです。

◆活動を通じての今後の展望

この体験活動の他、愛護班活動や毎日の通学路での立哨指導、地区防犯での見



本堂での学習

守り活動など金田地区の子どもたちは小さな頃から、地域の人々に愛され、育てられています。そうした環境の中、地域の歴史、文化財に多く触れていくことで郷土を知ることにより、郷土を愛する心が育っていくと思います。
この体験学習を通して、地域の温かさを感じ、「やさしさ」と「思いやり」に満ちた子どもに育ってくれると思います。そして子どもたちが大きく成長した時、郷土を愛し、地域の伝統文化を語り受け継ぎ、後世に残していくてくれることを切に願っています。